

【催眠⇒オナホ】  
催眠アプリで下校中の少女をお持ち帰りペット調教♪

琴音

「ふんふん♪ ふんふん♪ ふんふん♪  
ふんふん♪ ふんふん♪ ふんふん♪  
ふん♪ ふん♪ ふん♪ ふん♪  
……って……あぶっ!?!」

琴音

「ん……いてて……って、ふえ?」

琴音

「あ、ごめんなさい! 琴音よそ見しちゃって  
て……あうあう……本当にごめんなさい……ご  
めんなさい……」

琴音

「ふえ? あ……それ、琴音のハンカチ……  
……あ、落としちゃったの拾ってくれたんですね……  
……えへへ……叔父様、ありがとうございます♪」

琴音

「では琴音はこれで……って……お、叔父様? そ  
んな……手首を掴まれちゃ……あ……ひぐっ……  
……う……うう……ちよっと痛いです……」

琴音

「ん……やっ……は、離してください……ん……  
やっ……お、叔父様……? い、嫌……何だ  
か……うう……ご、怖いですう……」

琴音

「ご、琴音に何か御用ですか……? 琴音、この後  
習い事があって早く帰りたいんです……だから……  
……は、離してください……い……って、ふえ?」

---

琴音

「あ……駅の場所……ですか？ ああ！ な、なるほど！ つまり叔父様は道に迷われていたんですね！」

琴音

「えへへ♪ ごめんなさい♪ 琴音、てっきり叔父様の事、不審者さんか何かかと……あうう……簡単に人を疑っちゃダメですね……琴音反省です……♪」

琴音

「それで駅の方角……ですよ？ えっとですね、まずこの道をまっすぐ行って左に行って、また右にいった……」

琴音

「あ……ご、ごめんなさい……！ ちょっと分かりづらかったですよね……あうあう………琴音、いつもはお車で帰ってるから上手く説明できなくて……」

琴音

「あ、それ、叔父様のスマートフォンですか？ わっ……凄い……これがスマホ……」

琴音

「琴音はお父様にスマホを持つことを禁じられて………わあ……本当に触ると反応するんですね………凄いです♪」

琴音

「ええーっとそれで……あ……この地図アプリを開いて駅の場所を教えれば……なるほど！ それなら琴音もうまく説明できそうです！」

---

---

琴音

「では早速アプリを開いて……って……あ、あれ？  
何だか変な画像が開いて……は、はえ？ やっ  
……もしかして琴音何か間違えちゃ……って……  
……あ、れ……？」

琴音

「……あ……ああ……う……ぐっ……  
……あ……な……な……に……  
「こ……れ……」

琴音

「こ……と……ね……へ……ん……に……  
な……って……」

琴音

「あ……あ……ああ……ん……ん……  
……」

琴音

「……はい……琴音の名前は、綾小路琴音……  
……です……」

琴音

「あ……は……い……今は学園からの下校中で  
……お家に帰る途中……です……」

琴音

「……え……？ あ……はい……琴音は……  
……叔父様の……叔父様に飼われたペット……  
愛玩……ペット……」

琴音

「う……あ……はい……今日は叔父様  
の……あ……ちが……う……叔父様じゃ  
なくて……ご主人様……ご主人様のお家  
にお邪魔しなきゃ……だ……め……」

---



---

琴音

「……でも……はえ？　そういえばご主人様と琴音のお部屋ってどこにあるんですたっけ……？  
あ、あれ？　何で琴音、ご主人様のお部屋忘れちゃってるの……？」

琴音

「ん……あ……ご主人様……あううう……♪　ご主人様が抱っこで連れてつてくれるんですか？」

琴音

「ああうううう♪　こんな風に抱っこまでしてくれるなんて……ご主人様あ♪　琴音のご主人様素敵すぎますうううう♪　えへ……♪　えへへへへ……♪」

琴音

「ご主人様うう♪　ご主人様のお部屋に着いたら琴音、いっっぱいご奉仕しますから♪」

琴音

「はい♪　ご奉仕って何をすればいいのかいまいち分かってないんですけど……でも一生懸命頑張らないといけないのは分かってますので！」

琴音

「えへへうう♪　ご主人様うう♪　期待しててくださいね♪　んへへへうううう♪」

---

琴音

「えへへ♪ お邪魔します……って、あれ？  
ただいまの方が正しいのかな……？ ううん……」

琴音

「あ、あれ？ 普段からご主人様にご奉仕する為に  
来てるはずなのに何だか初めて来たみたいな感覚  
で……あ、あれ……？ あれあれ……  
……??？」

琴音

「あ……ご主人様！ すみません……！ 琴音……  
また頭が混乱しちゃって……」

琴音

「……って……あ……それ……また……  
……スマホ……あ……ああ……  
……」

琴音

「は……はい……ご主人様……琴音は……  
……ご主人様の忠実な僕……ご主人様だけの  
メス猫……都合のいいペット……です……  
……」

琴音

「ペットは毎日ご主人様のお部屋でご奉仕……  
それが普通……当たり前……エッチなメ  
ス猫衣装でご奉仕するのが……琴音のお仕事  
……大切なお仕事……」



琴音

「んあ……あぶ……ん……ちゅ♪ れろ、れろれろ  
……♪ ちゅぶ♪ ん、あ……♪ ご、ご主人  
ひやま……？ ん……やつ……キス……嬉ひ……  
ん……ちゅ♪」

琴音

「琴音の……ちゅ♪ ん……メス猫にきしゅう……  
♪ あ……♪ あぶっ♪ ちゅ♪ ん……ちゅ♪  
れろれろ……ご主人ひやまからきしゅ……♪  
あぶ♪ ん……ちゅぶ♪ ちゅ……嬉ひいれしゅ  
……♪」

琴音

「ん……あ……♪ れろれろ……♪ ん……♪ ご  
ひゅじんひやま……♪ ごひゅじんひやま……  
♪ ん……ちゅ♪ れろ、れろれろ……♪ あ  
むう……♪ れろ……ちゅ♪ ん……ちゅ♪  
ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ん……ん……ふはあ……！！ はあ、はあ  
……♪ あ……♪ ご主人様あ……♪ えへ……  
♪ えへへへ……♪ ご主人様しゅき  
……♪ ご主人様あ……♪ ご主人様ご主人  
様あ……♪」

琴音

「ん……あ……♪ えへへ……ごめんなさい♪ ご  
主人様のキスが嬉しすぎて、琴音……肝心な事を  
忘れていました♪」

---

琴音

「琴音はご主人様の性処理ペットですから♪ ご主人様がたくさん気持ちよくなれるように、メス猫らしいお洋服に着替えなくちゃいけませんもんね♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様あ♪ 琴音、可愛いペット衣装に着替えてきますから♪ 今日、琴音の事、いへへ♪ 可愛い可愛がってくださいね♪ えへへへへへへ♪」

---

「んへへ〜♪ ご主人様〜♪ お待たせして申し訳ありませんでした♪」

「はい♪ ご主人様だけの愛玩性処理ペット……♪ 音ですにゃん♪ にゃ〜んて♪」

「にゃふる♪ どうですか？ 子猫な琴音は可愛いですか？」

「ん……にゃん♪ えへへ〜♪ ご主人様〜……♪  
ん……ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪」

「ああう〜〜♪ いきなりご主人様の唾液をいただけなんて……ん……あん……♪ やあ……♪ 音嬉しくて嬉しくて……ん……ちゅ♪ 唾液がトプトプ溢れてきちゃって……あ……ああ……♪」

「ご主人様〜……♪ ん……ちゅ♪ れろ……れろ  
れろ……ん〜……ああ……しゅき〜……♪ ちゅ  
♪ ん〜……ちゅ♪ ご主人様しゅきしゅき〜……♪」

「はあ、はあ……あれ……？ ご主人様……ん……  
……あ……♪ ごめんなさい……何だか今日、  
♪ 琴音の体変で……ん……あ……あん……♪」

琴音

「あ……♪ これ……ご主人様とキスする度に……  
ん……ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん……  
……ちゅ♪ あ……はあ……♪ お股、熱くなつて  
……ん……やつ……あん……♪」

琴音

「ん……にや……♪ はあ、はあ……♪ ああ……  
♪ ご、ごひゆ人ひやま……♪ ん……や……♪  
ん……れろ……れろれろ……ちゅぷ♪ ん……  
……ちゅ♪ れろ……ちゅ、ちゅ……♪」

琴音

「や、ああ……♪ ご主人様……♪ ん、ん……  
き、聞いちやダメですう……♪ ん……あ……  
♪ 琴音の発情した音……ん……ん……お股の  
音聞いちや……や……あん♪」

琴音

「あ……♪ はあ、はあ……♪ ん……ちゅ♪  
れろ、れろれろ……♪ あぷっ……♪ ん……  
ちゅ♪ れろ……れろれろ……ん……あ……♪  
はあ、はあ……ん、や……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ 何で……？ 琴音……  
……もしかして病気になっちゃったの……？ ん……  
……あ……♪ ちゅ♪ れろ……れろれろ……ちゅ  
♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「へ……？ ご主人様とのキスが特別なだけ……？  
あ……そ、そっか……えへ……えへへ……  
それってつまり……ん……ちゅ♪ ご主人様と琴  
音の相性が良すぎるって事ですよ……？」

琴音

「んへ……♪ んへへへ……♪ 良かった♪ 病  
気じゃないなら……ん……ちゆ♪ もっとも  
……とご主人様とキスして発情しちゃいますね  
♪」

琴音

「はあ……♪ ご主人様あ……♪ 琴音の唇……  
……ご主人様の愛玩ペットの唇……いっぱい感じて  
くださいね？ ん……ちゆ♪」

琴音

「ん……ちゆ♪ れろ、れろれろ……ん……ちゆ  
♪ ちゆ、ちゆ、ちゆ、ちゆ♪ はあ……♪  
ご主人様……♪ ご主人様……♪ ん、  
ちゆ♪ ちゆ、ちゆ、ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「ん……ちゆ♪ れろ……れろれろれろ……  
ん……？ んっ……！ んむう……！  
……！……！」

琴音

「あぶっ！」「ひゅじんひゃ……んむう……！？  
ちゆぶっ！ じゆるるる！ ん、んむむ！ じゆる  
る！ じゆるるる……！……！」

琴音

「んにゃ！？ しょんな、舌入れ……ん……やつ……  
……！ あぶっ！ じゆるる！ じゆるるる……！  
んむう！ ちゆぶ！ れろ、れろれろれろ……  
……！……！ じゆるるる！ じゆるるる……  
……！……！」









---

琴音

---

「えへへ♪ ご主人様しゆき♪ ご主人様だ  
しゆき♪ んへへ♪ んへへ♪  
♪」

---

琴音

「はあ、はあ……♪ ご主人様……あのですね？  
琴音……♪ご主人様の唇だけじゃなくて……そのう  
……お耳にもキスしてみたいなって思ってた……  
……」

琴音

「やっぱり変ですよね……あう……じ、実は  
お友達に読ませてもらった本にそういう遊びが  
のってて……いつかしてみたいな……って……  
……」

琴音

「それで……そのう……そういう事出来る相手って  
……琴音にはご主人様しかいないから……だから  
……そのう……」

琴音

「ふえ？ い、いいんですか……？ ご主人様にお  
耳ご奉仕していいんですか……!？」

琴音

「う……あうう……♪ あうあうあうあう  
……♪ やあ……♪ ご主人様あ……♪ ご  
主人様ご主人様……♪ ん……あぷ♪」

琴音

「ん……ちゅ♪ れろ……ちゅ♪ れろ……れろれ  
ろ……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ♪ ちゅ……  
ちゅ♪」

琴音

「あう……♪ えへへ♪ ご主人様……♪ 琴音、いつ  
ぱい頑張りますから♪ ご主人様のペットとして  
一生懸命お耳にご奉仕しますから♪」

「ご主人様……♪ 琴音の耳舐めご奉仕……ご期待  
くださいね♪ ん……ちゅ♪」

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ では早速う……  
♪ ん……ご主人様のお耳に……失礼しまして……  
……っと……」

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ ご主人様のお耳  
……♪ ん……スン♪ スンスン……♪ すう  
……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪  
……♪」

「えへへ……♪ 凄くすっぱくて臭いです……♪  
はあ、はあ……♪ はふう……♪ えへへ……  
♪ これがご主人様の香りなんです♪」

「ん……♪ ペットとしてはキチンと主人の匂い  
を覚えとかなくちやですもんね……うん……♪  
琴音……頑張っご主人様の香り覚えます……  
♪」

「ん……すん♪ スンスン……♪ すう……♪  
……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪  
はあ、はあ……♪ ん……♪ すん……スンス  
ン……♪」

「ん……はあ、はあ……♪ ああ……♪ お耳のゴ  
ミが沢山見えて……♪ スンスン……♪ スン……  
……♪ スン、スンスン……♪ すう……♪  
はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪ はあ……♪  
……♪」

琴音

「えへ……♪ ご主人様……♪ ふう……♪  
~~~~~♪ ふう……♪ ふう……♪  
……♪ ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪  
~~~~~♪」

琴音

「はあ……♪ご主人様……♪行きますね……♪？ 琴  
音のちっちゃなペロ……♪お耳で感じてください……  
……♪」

琴音

「ん……♪れ……♪あぶ♪ ん……♪ちゆぶ♪  
ちゆ……♪れろ……♪れろれろ……♪ん……♪れろ  
……♪ちゆ♪ ん……♪ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「ご主人しゃま……♪ ん……♪ちゆ♪ れろれ  
ろ……♪ あ……♪ ご主人様の耳カスこんな  
に……♪いっばい……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ ああ……♪ ご主人様の耳カ  
ス……♪ ん……♪くちゆ♪ くちゆく  
ちゆくちゆくちゆ……♪ ん……♪ ん……♪ご  
く♪ 「く♪ 「く♪ 「く♪ ぶはあ♪  
はあ、はあ……♪」

琴音

「あああ……♪ ご主人様の味……♪ ご主人様  
の匂い……♪ ん……♪ 大好きなご主人様をこ  
んなに味わえるなんて琴音幸せすぎますよ……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ あう〜♪ ご主人様……♪  
「ご主人様ご主人様……♪ あう〜……しゆき  
〜♪ しゆきしゆきしゆきしゆき……♪  
ん〜……ちゆ♪ れろ……ちゆ♪」

琴音

「ああ……♪ しゆき〜♪ ん〜ちゆ♪ ちゆ……  
ちゆ♪ はあ、はあ……♪ あう〜……♪ 琴音  
も〜……ん……あ……♪ お耳にキスでまた胸が  
ドキドキしちゃって……♪ ん……ちゆ♪  
ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ お口でご奉仕するの大好きで  
す〜♪ ああ……♪ 「ご主人様……♪ ん〜……  
…ご主人様ご主人様……♪」

琴音

「ん……♪ 「ご主人様〜？ 次はこういうのはどう  
でしょう？ ん……琴音のベロにいっぱい唾液を  
塗して……」

琴音

「ん〜……くちゆ……くちゆくちゆくちゆ……  
…♪ ん、ん〜……いきまふね〜？ ん〜……れ  
ろ〜……♪ ん〜……じゆる♪ じゆる  
る♪ じゆりゆりゆりゆり……♪」

琴音

「ん……れ〜……ろれろれろ……ん〜……  
ひゅじんひやまのお耳……ん〜……ねっとりゆっ  
くり〜……♪ ん〜……れ〜……ろれ  
ろ……れろれろ〜……ん〜……じゆる……  
じゆるるる〜♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ えへへ……♪ ご主人しゃまご主人しゃま……♪ ん……ちゅ……♪」

琴音

「ん……にやふ……♪ ご主人様のお耳、琴音の唾液でいっぱい……♪ んへ……♪ ご主人様……♪ ん……すう……ふう……♪」

琴音

「琴音のお口ふうふうで一度乾かしますね？ ん……すう……ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪ ふう……♪」

琴音

「はう……ご主人様ご主人様あ……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ……ちゅ♪ えへへ……♪ 琴音の吐息、気に入ってくださいっただんですね♪ あう……♪ 嬉しいです嬉しいですよ♪」

琴音

「でしたら……ん……ちゅ♪ 琴音の吐息とお耳ペロペロ、同時に味わってくださいませ♪ はあ……いきますね……？ ん、れ……ろれろれろ……ん……じゆる♪ じゆるるる……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ はあ……♪ ああ……♪ ご主人様……♪ ん……♪ 琴音の……♪ 琴音だけのご主人ひやま……♪」

琴音

「ん……はあ、はあ……♪ もっと……♪ 琴音、もっとご主人様が欲しい……♪ ああ……♪ もう我慢できませんよ……♪」

琴音

「ん……ごく……はあ、はあ……♪ ご主人様……♪ 琴音頑張りますから……もっと激しくご主人様のお耳愛しますから……♪ はあ、はあ……♪」

琴音

「ご主人様も……ん……琴音の……性処理ペットの  
お耳ご奉仕……いっぱい感じてくださいね……？  
ん……はあ、はあ……ん……ああ……ん  
むう♪ れろ、れろれろ、れろれろれろ……♪  
……♪」

琴音

「ん……♪ ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ あう  
……♪ ご主人様……？ 琴音、うまくお耳を舐  
められていますか？ 琴音のお耳ぺろぺろ……楽し  
んでくれますか……？」

琴音

「はあ、はあ……♪ にや……ん♪ 嬉しいです  
♪ ああ……♪ ご主人様……♪ ご主人様あ  
……♪ ん……れろれろ……ちゅ♪」

琴音

「琴音、もっとも……と頑張りますから♪ はい♪  
琴音のちっちゃなペロで気持ちよくなってくだ  
さいませ♪ ん、れ……んぷ♪ じゆる  
る♪ じゆるるる♪ じゆるるるう……♪  
……♪」

琴音

「ん〜……れろれろ……ぷはあ♪ はあ、はあ……  
♪ えへへ……♪ ご主人様〜？ にゃ〜ん♪  
えへへ〜♪ 琴音、何だかお耳にキスする度に「  
主人様への想いが強くなってきて……」

琴音

「はあ、はあ……♪ ん、ごく……ん〜……はあ、  
はあ……にゃ〜ん♪ ご主人様あ……琴音……  
体が火照っちゃって……熱くなっちゃって……♪  
はあ、はあ……♪ はあ、はあ……♪」

琴音

「あう〜……♪ ご主人様あ〜……♪ ご主人様ご  
主人様ご主人様〜……♪ はあ、はあ……♪ 好  
きです……♪ 大好きです……♪」

琴音

「ん〜……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ご主人様が好き  
すぎて……あう〜……♪ 琴音変になっちゃいま  
した〜……♪」

琴音

「琴音……もう赤ちゃんじゃないのに……お股から  
お漏らし止まらなくて……ん……♪ はあ、はあ  
……♪」

琴音

「んお……お……おおう……ん、はあ、はあ……  
……ご主人様ごめんなさい……お漏らししちゃう情  
けないペットで「めんなさいい……♪ ん〜  
……はあ、はあ……♪」

琴音

「でも……粗相をしちゃった分は……きちんとご奉  
仕でお返ししますから……ん……えへへ……♪  
ご主人様あ〜……♪ ちゅ♪ ん〜……ちゅ♪」

琴音

「琴音の気持ち……琴音の愛情……琴音の大好き……♪ いっぱい感じてくださいね……♪ ん……♪ …ちゅ♪ はあ……んむ♪ れろ♪ れろれるろれるろ♪」

琴音

「ん……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ んにや♪ えへへ♪ ご主人様……♪ 最後に、琴音がご主人様の耳カスをくちゅくちゅごつくんしますので♪ ペットの咀嚼音、聞いてくださいね♪」

琴音

「ん、ん……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ……♪ ん、ん……んむ……ん……♪ ん……♪」

琴音

「ん……く……く……く……く……く……ん……く……ぷはあ♪ はあ、はあ……ん……はふう……♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様♪ お耳、ご馳走様でした♪ んへへ♪ ご主人様の耳カス、とっても美味しかったです♪」

琴音

「出来る事ならもっともうっとお替りが欲しいです……けど……ん……ちゅ♪ こちらのお耳はもうピカピカになっちゃいましたから……♪」

琴音

「ん……しょ……ん……しょ……っ……♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ ちゅ……♪」

琴音

「こちらのお耳も♪ ペットの琴音が綺麗にしてあげますね♪ はい♪ にやんにやんご奉仕です♪ えへ♪ ご主人様♪……♪ ん♪……ちゆ♪ れろれるろ……ちゆ、ちゆう♪……ちゆ♪」

琴音

「ん、はあ♪……♪ こちらも……ん♪……ちゆ♪ 沢山お耳のカスが溜まって……♪ あう♪……♪ 耳カスのお替りいっぱい嬉しいです♪ ん♪……ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「ん♪……あ♪……♪ やあ♪……♪ また……ん♪……♪ な、何で？ ご主人様のお耳にキスする度に、お腹の奥が熱くなって……♪ ん♪……♪ はあ、はあ♪……♪」

琴音

「ん、あう♪……♪ ご主人様あ……♪ はあ、はあ♪……♪ ん♪……♪ ごく♪……♪ はあ、はあ♪……♪ あう♪……♪ ご主人様♪……♪ ご主人様ご主人様あ……♪」

琴音

「ん♪……ちゆ♪ れろれるろ……う♪……♪ ご主人様好きですう♪……♪ ご主人様大好きですう♪……♪ ん♪ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「お耳を舐める度にご主人様への想いがあふれて止まらなくて……♪ ご主人様のペットになれて……♪ご主人様の性処理に琴音が使って貰えて……♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ あうあう♪ 琴音、ご主人様の性処理ペットになれて本当に幸せですう♪ ご主人様……♪ ご主人様しゅき♪ ご主人様だしいしゅきい♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

琴音

「ん……♪ えへ♪ ご主人様あ♪ もっと琴音のちっちゃな舌……お耳で感じてほしいので……♪」

琴音

「れ……ろれ……ろ♪ ん……ちゅ♪ ねっとりとお耳♪ 舐めさせていただきますね♪ ん……」

琴音

「んへへ♪ ご主人様♪ ご主人様好き♪ えへへ♪ ご主人様だしいしゅき♪」

琴音

「ご主人様のお耳も……ご主人様のくさしい耳カスも♪ ぜんぶ琴音の大好物です♪ ん♪ ちゅ♪ ちゅ♪……ちゅ♪」

琴音

「ん……はふう♪ ああ……♪ ご主人様のお耳、琴音の唾液でこんなに濡れて……♪」

琴音

「ん……スン♪ スンスン……♪ すう……♪ ……♪ はあ……♪……♪」

琴音

「あう……♪ あうあう……♪ ご主人様と琴音の香りが混ぜったお耳……♪ ん……ふう……♪……♪」

「琴音がまた吐息で乾かしてあげますね♪ ん……  
ふう~~~~~♪」

「んへへ〜♪ このまま……琴音の息を入れなが  
ら〜……ん〜……ちゅ♪ ご主人様のお耳♪ ま  
たペロペロしちゃいます♪」

「ん……はうう……♪ ご主人様ってば、そんなに  
琴音の事抱きしめてくれるなんて……♪」

「ん、や〜ん♪ ダメですよ……♪ 琴音……  
嬉しすぎてご奉仕に集中できなくなっちゃいます  
……♪」

「ん……あん♪ はあ、はあ……♪ えへへ♪ ご  
主人様あ〜……♪ ちゅ♪ ん〜……ちゅ♪  
あう〜♪ しゅき〜♪ ご主人様しゅきしゅき  
〜♪」

「はあ、はあ……♪ ご主人様あ♪ ん〜……♪  
ご主人様あ〜♪ もつと〜♪ こっちのお耳で  
も琴音の事……♪ 沢山感じてください♪」

「琴音……頑張りますから♪ 大好きなご主人様の  
為に……♪ 琴音……一生懸命お耳ご奉仕します  
ね♪」

「……はい♪ だって琴音はご主人様のペットです  
もん♪ ん〜……ちゅ♪ 琴音の愛を、どうか受  
け取ってください♪」

琴音

「ん♪ ん〜……れ〜〜〜♪ れりゆれりゆ  
……んちゆ♪ じゆる♪ じゆるる♪ じゆるる  
るるう〜〜〜♪」

琴音

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ んふう〜♪  
ん〜……いつふあい耳カスが取れて……ん〜……  
くちゆ♪ くちゆくちゆくちゆくちゆ……♪  
ん、ん〜……♪」

琴音

「ん……」「く♪」「く♪」「く♪」「く……  
ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ あう〜〜〜♪  
ダメですう〜……♪ こんな量じゃ全然足りま  
せん……」

琴音

「もっと……もっと沢山………お腹いっぱいにな  
るくらい」ご主人様の耳カス食べたいです……♪  
琴音の大好きな耳カス……♪ ご主人様の耳カ  
スう……♪」

琴音

「ん……あ〜〜〜……んむう♪」

琴音

「ん、ん〜〜〜……んむ………ぷはあ……  
はあ、はあ、はあ、はあ………♪ ん……  
ん〜………ん……」

琴音

「んへへ〜……♪ お口の中が……ん………ご主人  
しゃまの耳かしゅと唾液でいつふあいれ……  
ん……んむう〜………」

琴音

「ん……くちゅ……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ……♪」

琴音

「ん……♪く♪ く♪ く♪ く♪ く♪ ……ん  
♪……♪く♪ く♪ く♪ く♪ ……♪」

琴音

「んむ♪ ん……ん♪ ……♪ふはあ♪  
はあ、はあ……はふう……♪♪」

琴音

「えへへ……♪ ご主人様あ……♪ すう……  
♪ ……はああ……♪ ……♪」

琴音

「はあ……♪ はあ……♪ すう  
♪ ……はああ……♪ ……♪」

琴音

「んへ……♪ ご主人様のお耳、ご馳走様でした♪  
はい♪ ご主人様の耳カス、ぜ……んぶ琴音がいた  
だいちゃいました♪」

琴音

「どうでしたか？ 琴音のお耳ペロペロ、お気に召  
してくれましたか？」

琴音

「……って……あ……♪ えへへ♪ ご主人様って  
ば……いつの間におちんぼこんな大きくしてた  
んですか？」

---

琴音

「えへへ♪ これも琴音の耳舐めのせい……ですよ  
ね？ あううう♪ 琴音のペロペロで興奮してく  
れたと思うだけで……はうううう♪ 琴音……  
嬉しくて嬉しくてお股がキュンキュンしちゃいま  
すよおう……♪」

琴音

「んみゆうう……♪ はあ、はあ……♪ はい♪  
任せてください♪ 琴音、頑張っておちんぽにも  
ペロペロしますから♪」

琴音

「だって、琴音はご主人様のペットですもん♪  
いっぱい気持ちよくしてあげますから……期待し  
ててくださいね♪ ご主人様♪」

---

トラック05 (催眠パート)

「それではご主人様♪ 今からご主人様のおちんぽにご奉仕させていただきます……って、ふえ？」

「あの……ご主人様？ 急にスマホを取り出してどうしましたか……？ って……あ……」

「あ……はい……琴音は……ご主人様のペット……ご主人様の性処理ペット……」

「はい……琴音はご主人様のおちんぽが好き……ご主人様のおちんぽにキスするのが大好き……」

「ご主人様のおしっこも……精液も……チンカスも……琴音の大好物……琴音が一番好きな食べ物……ご馳走……」

「だから全部飲む……全部食べる……ごぼしちやダメ……ご主人様の全部……ごっくん……する……」

「う……ん、ん？ ふえ？ あ、ご主人様！？ す、すみません！！ 琴音、またボーっとしちゃって……」

---

琴音

「あう〜……今日はどうしたんだらう……？ 大好きなご主人様の前なのに集中できてないみたいで……」

琴音

「……って、いつまでも考えてちゃダメですよね！ はい♪ 琴音はご主人様のおちんぽにご奉仕しなくちゃですもん♪」

琴音

「えへへ……琴音の好物がいっぱい詰まったご主人様のおちんぽ……頑張ってご奉仕しますね♪」

---

琴音

「んっしょ……んっしょ……ご主人様のズボンを脱がして……っと……んっしょ……っしょ……んっしょ……えい……！」

琴音

「はわあ……これがご主人様のおちんぽ様♪んっしょ……はふう……♪」

琴音

「先っぽがほんのりチン皮に包まれた可愛いおちんぽ様……♪んっしょ……すん♪ すんすん……♪」

琴音

「あう……♪ 臭くてすっぱい香りが鼻にツンつときて……♪ あう……♪ 琴音、この匂い大好きですう……♪」

琴音

「はあ……♪ おちんぽ様あ……♪ おちんぽ様おちんぽ様あ……♪んっしょ……すん♪ すんすん♪ すう……♪ はあ……♪」

琴音

「ああ……♪ 可愛いです……♪ ご主人様のおちんぽ様本当に可愛らしいですう……♪」

琴音

「生で見るのは初めてでしたけど、こんなに可愛いなら怖くな……い……？」

---

琴音

「はれ？ 琴音、いつもおちんぽ様に」ご奉仕してるはずなのに……何で初めて見た何て言ったんだろ……？」

琴音

「あれ？ ご主人様のおちんぽ……いつも美味しくいただいてる大好きなおちんぽ様なのに……何で……？」

琴音

「あ……ご主人様……ん……そうですね……今はそんな事よりおちんぽ様に」ご奉仕しなきゃですもんね……！」

琴音

「はい♪ 琴音、あやうく性処理ペットとしての役割を忘れちゃうところでした♪ ペットとしての在り方を思い出させてくれてありがとう」ごさいます♪ 「ご主人様♪」

琴音

「それでは♪ はい♪ 琴音のちっちゃなお口でおちんぽ様、いただきちゃいますね♪」

琴音

「はあ……♪ おちんぽ様あ……♪ どうか琴音のおちんぽキス……受け取ってくださいませ……♪」

琴音

「ん……♪ ん……ちゅ♪」

琴音

「はあ……♪ おちんぽ様おいしい……♪ ん……おちんぽ様のチンカスも唇について……ん……れろ……ちゅ♪」

---

琴音

「あう〜……♪ 琴音が大好きなチンカスご飯おいしいです〜♪ ん〜♪ あむ♪ あむあむ♪」

琴音

「えへへ〜♪ おちんぽ様しゅき〜♪ チンカス大好き〜♪ ん〜、ちゆ♪、ちゆ♪、ちゆ♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様〜♪ ん〜、ちゆ♪ 今日もチン皮の中綺麗にしてこなかったんですね♪」

琴音

「それってやっぱり……そのう……自惚れかもしれないですけど……琴音に沢山チンカスを食べさせてくれる為……ですよね……?」

琴音

「あうあう〜……♪ ご主人様あ〜♪ 琴音、すつ〜♪ 嬉しいですう〜……♪」

琴音

「ああ〜……♪ だって……ん……ご〜く……♪ はあ、はあ……♪ 琴音、今まで食べた物の中でもご主人様のチンカスが一番好きで……大好物で……♪」

琴音

「今日のチンカスも……ん〜……♪ くちゆくちゆくちゆくちゆ……♪ ん〜……ご〜く、ご〜く……♪ はうう〜……♪ 出したておしつこの混ぜったお小水チンカスでおいしいですう〜♪」

琴音

「ん〜ちゆ♪ れ〜ろれろれろ〜……♪ ちゆぷぷ♪ ん〜、ちゆ♪ おしつこが混ぜってダメになつたおしつこチンカスう〜♪ ん〜……あうあう〜……♪」

琴音

「こんな貴重なチンカスを琴音が独占しちゃってるんだって思うと……うう………」 琴音……  
幸せすぎてどうにかなっちゃいます」

琴音

「はあ、はあ………♪ あう………♪ ご主人様のチンカスう………♪ ん………ちゅ♪ れろれろ………♪ もっと、お口全部でしゃぶらせていただきませぬ♪」

琴音

「はい♪ 琴音のちっちゃなお口いっぱい頬張っちゃいますから♪ ご主人様♪ 沢山琴音のお口にチンカスこすり付けてくださいませ♪」

琴音

「ん………はあ………んむう♪」

琴音

「ん、じゆるる………！ ん………あう………♪ ご主人様のおちんぽお………♪ チンカス美味しい♪ ん………もつろ………♪ いっふあいくらひや………い♪ ん………れ………ろれろれろ………♪」

琴音

「んふう………♪ ごひゅじんひやま………♪ ん………じゆるる♪ じゆるるう………♪ ん、ん………♪ ひゆき………♪ ごひゅじんしゃまもチンカシユもらいひゆき………♪」

琴音

「ふあい♪ 琴音はれんれん苦ひくないれしゆよ？ ん………じゆるる………じゅぶぶ♪ ん………れろれろ♪ ん………ちゅ♪ じゆるる、じゆるるう………♪」

琴音

「むしろ琴音のベロも喉もご主人様の味でいっふあ  
いれ……んちゅぶぶ♪ 嬉しいれしゅ♪」

琴音

「らから♪ ご主人ひやまは気にしないれくら  
ひやい♪ んちゅ♪ 琴音の事はペットと……  
オナホールと考えるくらさればいいんれしゅ♪」

琴音

「ご主人しゃまのおちんぽしゃまを気持ちよくしゅ  
る……んちゅるるるる♪ ん……♪ しよれ  
が琴音の生きてる意味れしゅから♪」

琴音

「ん、ちゅぶぶ♪ れろ♪ れろれろれろ……  
♪ んふう♪ らからもつと、ご主人しゃまの  
したいように……ちゅちゅ♪ 琴音のお口を使っ  
てくらひやい♪」

琴音

「ん……じゅるる……ん、ん……？ ごひゅじん  
ひやま……？ 琴音の頭を掴んでどうひまひたか  
……？ って……ん、んぶう……！……？？」

琴音

「んぶっ！ ん、んん……！……？？」、「ごひゅじ  
んひや……まぶう……！……ぶぶっ！……じゅる  
る！……じゅりゅりゅりゅ……！……」

琴音

「んお……♪ おぶ♪ じゅぶ♪ ん、んむう……  
……！」「ひゅじんひやまはげひ……！……ん  
……！……じゅるる！……じゅるる……！……」

琴音

「ん……！　んお……♪　お……おぶう……♪  
じゆるる♪　ん……！　いいれすう……♪　琴  
音のお……お……♪　んぶぶ♪　喉もつと締めま  
ひゆからあ……♪」

琴音

「ん……！　じゆるるる♪　ん、んぶう……♪  
いつふあいおちんぽひやま……きもひよくなつれ  
くらひやい……♪♪　ん……♪　じゆるるる♪  
じゆるるるう……♪」

琴音

「んぶんぶんぶんぶ♪　んぶんぶんぶんぶ♪　ん、  
ん……♪　おちんぽひやまおつきくなつれ……ん、  
んん♪　じゆるるる♪　じゆるるる……♪」

琴音

「も、もう……れちやうんれすね？　ん、んぶぶ♪  
じゆるるる♪　じゆるるるう……♪　ん、ん  
……♪　いいれひゆ……♪　いつふあ飲まひえて  
くらひやい……♪」

琴音

「ん……♪　じゆるるる♪　ん、んひゆじんひやまの  
しえいえき……♪　ん……♪　んひゆじんひやまの  
おちんぽみりゆく……♪　いつふあい琴音に……  
じゆるるる♪　じゆるるるるう……♪」

琴音

「琴音のお腹いつふあいになりゆまでのまひえてく  
らひやい……♪　ん……♪　じゆるるる♪　じゆるるる  
♪　じゆるるるるう……♪」





トラック07 (催眠パート)

「ん……はえ……？ ご主人様……？ またスマホを弄られるのですか？」

「エッチの前の準備……なるほど……かしこまりました♪ 琴音は大人しく待ってますね♪」

「……ふえ？ 琴音もスマホを？ って……あ……」

「あ……う……ん……あ……ああ……」

「……はい……琴音は……ご主人様のペット……ご主人様専属の性処理ご奉仕ペットです……」

「……ん……はい……琴音はご主人様が好き……ご主人様が大好き……です……」

「ご主人様のセックスが好き……大好き……おちんぽおまんこに入れられるのが大好き……」

「おちんぽ入れられるとすぐ喘ぐ……変態ペット……琴音は変態……とってもエッチな性処理ペット……」

琴音

「……あ……はい……中出しで催眠……解ける……」  
琴音……正気に戻る……」

琴音

「また中出しで……催眠かかる……中出しで解ける……かかる……解ける……かかる……交互に……繰り返し……」

琴音

「……ん……あ……ああ……ん……ふえ？」

琴音

「はうわ!? ひゃっ!? ご、ご主人様ってばいつの間にこんな近くに……!?!」

琴音

「……ふえ? もしかして琴音、またボーっとしちゃってましたか?」

琴音

「あう……琴音、ご主人様とのセックスが楽しすぎて夢うつつだったのかもしれない……すみませんご主人様……琴音だけ舞い上がっちゃって……」

琴音

「って……あぶ!? ん、んむう……! ん……ちゅ♪ れろ……ん……ちゅ♪ れろ……ちゅ……ちゅ♪」

琴音

「ん、はふう……♪ えへへ♪ ご主人様ってば……本当に優しすぎますよ……♪」

---

琴音

「はい♪ 琴音はもう大丈夫ですから♪ ご主人様  
♪ いっぱい、いっっぱい琴音の事……」

琴音

「琴音の……♪ ちっちゃなキツキツおまんこで♪  
おちんぽぬぶぬぶ気持ちよくなってくださいま  
せ♪ ん〜……ちゅ♪」

---

「はあ、はあ……♪ ん……♪ く……♪ ん……♪  
人様……♪ えへへ♪ やっとご主人様のおちん  
ぽ様で……そのう、琴音の……おまんこ……  
愛してもらえるんですね……♪」

「つて、はう……！ ご、ごめんなさいご主人様！  
愛してもらえるだなんて、性処理ペットとして  
は生意気な言葉でしたよね……！？」

「琴音はご主人様の恋人じゃなくてただの性処理ペ  
ットなのに……都合のいいオナホールなのに……  
はう……♪ 琴音ってば、ご主人様に優しくされ  
て、少し調子に乗っているかもしれません」

「琴音はご主人様の性欲が溜まった際に使える都合  
のいいハメ穴……でも……あのう……もし許され  
るのでしたら……そのう……♪ いっぱいご主人  
様の愛情を感じられるようなセックスをしてもら  
えると……♪ 琴音……すっごく嬉しいです……♪」

「はあ、はあ……♪ ん……♪ く……♪ あう……  
♪ ご主人様あ……♪ ん……♪ ちゅ♪ れろ……  
……ちゅ♪ ん……♪ ちゅ♪」

琴音

「はい……♪ このまま来てください……♪ 琴音のちっちゃなおまんこ穴に……♪ ん……あん♪ はあ、はあ……♪ ご主人様だけが触れることを許される琴音のプ二穴に……おちんぼ様、来てください……♪」

琴音

「ん……あ……♪ おちんぼ様がおまんこに入って……ん……やっ……♪ あ……♪ 痛っ……！」

琴音

「やっ……ん、あう……♪ はあ、はあ……♪ いえ、大丈夫ですから……はい♪ キツキツでお腹がミチくって広げられちゃってますけど……ん……あ……♪」

琴音

「ご主人様のおちんぼ様を受け入れられる喜びに比べればこんな痛み……何でもありませんので……♪ ん♪ あ……♪ はあ、はあ……♪」

琴音

「あう……♪ ご主人様……♪ 一思いに琴音の事……貫いてください……♪ 琴音のおまんこで気持ちよくなってくださいませ……♪」

琴音

「ん……あ……♪ や……♪ き、来ます……♪ おちんぼ様……奥まで来ます……ん……！？」  
「ん！ んん……！？」

琴音

「ん……ぷはあ……！ はあ、はあ……ん、はあ、はあ……♪」

「う……あうう……はあ、はあ……♪ んへ  
……♪ んへへへ……♪」

「ご主人様あ……♪ はあ、はあ……♪  
ど、どうですか？ 琴音のおまんこ……気持ちい  
いですか……？」

「……ん、はあ、はあ……♪ う……あうう……  
♪ おちんぽ様……ん……あん♪ お腹の中で動  
いてるのが分かります……♪」

「琴音のちっちゃなお腹も……ん♪ ポコっておち  
んぽ様の形に浮き上がっちゃって……♪ えへへ  
♪ まるでご主人様との赤ちゃんがお腹の中にい  
るみたいで……はうう♪ 琴音嬉しくなっちゃい  
ますよ……♪」

「ご主人様あ……♪ ん……♪ 琴音のお子様  
おまんこで……おちんぽきゅつきゅ♪ おちん  
ぽきゅつきゅ……♪」

「ん……♪ あん♪ やあ……♪ おちんぽ様ピク  
ピクってしました♪ えへへ♪ 琴音のおまんこ  
気に入ってくれたみたいで嬉しいです……♪」

「ならもう一度……♪ はい♪ ご主人様……♪  
おちんぽきゅつきゅ♪ おちんぽきゅつきゅ  
……♪」



琴音

「例えエッチの最中に琴音が壊れちゃっても、ご主人様が……おちんぼ様が気持ちよく射精してくればそれでいいんです♪」

琴音

「だって、性処理ペットの琴音にとって、ご主人様が射精してくれることが何よりも大切なことですから♪」

琴音

「ご主人様の思うように、琴音のプニ穴を使って気持ちいいおちんぽぴゅっぴゅ♪ してくださいませ♪ ん〜……ちゅ♪ ちゅぶ♪ ん〜、れろろろ♪ ちゅ♪ ん〜……ちゅ♪」

琴音

「つて、ひゃふ!? ん! あ♪ やっ♪ あ♪ あ♪ あ♪ あうううう♪ んお♪ あ♪ ん♪ あ♪ あ♪ あ♪ あ♪ ああ〜……♪♪」

琴音

「んあ♪ や……♪ ん♪ はあ、はあ……♪ ご、ご主人様……♪ ん〜……♪ や♪ あん♪ だ、ダメ……♪ しょは……んん♪ 琴音、おかしくなっひやいましゅ……!」

琴音

「あ……♪ ん♪ あ♪ あう♪ んお……♪ お……♪ おお……♪ き、聞かないでください……♪ 琴音のエッチな声……は、恥ずかしいれしゅ……♪」

琴音

「んお……♪ お……♪ おお……♪ んあ……♪ んお……♪ お……♪ お……♪ お……♪ おお……♪」

琴音

「ん、ふえ？ ん……や♪ ご主人様……♪  
い、意地悪ですう……♪ んお……♪ しょ、  
しよんな……♪ 琴音の……んお……♪ お♪  
おお……♪」

琴音

「琴音のエツチな声聞きたいだなんて……♪ ん…  
…あん♪ や……♪ だ、ダメえ……♪ 恥ずか  
しいのに……ん、あう……♪ ご主人様に喜ん  
でもらえて……ん……あん♪」

琴音

「はあ、はあ……♪ こ、琴音……しゅっごい嬉し  
くなっひやって……♪ ん……あん♪ はあ、  
はあ……♪ ん……あうう……♪ ご主人様…  
…♪ ご主人様ご主人様あ……♪」

琴音

「んお……♪ お……♪ お……♪ お……♪  
おお……♪ ん、はふ……♪ こ、ご主人様あ  
う……♪ しゅきい……♪ ん、お♪ おお…  
…♪ ご主人しゃまとのせつくしゅ大しゅきれ  
すう……♪」

琴音

「ん……♪ あん♪ はあ、はあ……♪ あうう…  
……♪ しゅき……♪ ご主人しゃま……♪  
んお……♪ お……♪ お……♪ お……♪  
おお……♪」

琴音

「ど、どうかいっぱい聞いてください……♪ 琴音  
の声……♪ エツチな喘ぎ声……♪ んお……♪  
お……♪ お……♪ おお……♪」

琴音

「パパにもママにも聞かせたことのないエッチな  
声え〜……♪ んお……♪ お、おお〜……♪  
ご主人様にしか聞かせない琴音の声………いつ  
ふあい聞いてくらひゃいい………♪♪」

琴音

「はあ、ん……あぐう……♪ んお……♪ お……  
♪ お……♪ おお〜……♪ ご主人様あ〜……  
♪ んあ……♪ こ、琴音え〜……もう……だ、  
ダメれしゆう………♪♪」

琴音

「んお……♪ お……♪ おお〜……♪ 琴音のお  
まんこ……ひやう……♪ んお……おお〜……♪  
嬉しすぎてもう……だ……めえ………♪♪」

琴音

「ご、ご主人様……♪ い、イキましゆ………♪  
琴音……んお♪ お……♪ おお〜……♪ 琴  
音イキましゆ………♪ 琴音………♪ ご主人しやま  
のおちんぽしやまでイツひやいましゆ………♪♪」

琴音

「んぎ………♪ んお♪ お♪ お♪ おお〜……  
♪♪ お、おちんぽしやま激ひい………♪ んひい  
………♪ お♪ お♪ お♪ おお〜♪ お♪ お  
♪ お♪ お♪ おお〜………♪♪」

琴音

「はあ、はあ………はひい………♪ ご、ご主人しやま  
もイキしようなんれすね………？ んあ………♪ や  
♪ あづう〜………♪ 嬉しいれしゆ………♪ んお  
………♪ お♪ お♪ おお♪」



琴音

「……………あ……………あれ……………？」「……………ど  
……………？ 琴音……………学園が終わって……………  
……………帰ってたはず……………だけ……………ど……………ど……………」

琴音

「……………へ……………？？」

琴音

「な……………何……………？ 叔父様は誰……………？  
琴音……………ふえ……………？ お腹変なの入っ  
て……………え？」

琴音

「う……………嘘……………？ この記憶……………え……………  
……………？ これ……………琴音……………？ へ……………？  
全部……………琴音がした……………こ……………と……………  
……………？」

琴音

「じゃあ今お腹の中に入ってるの……………って……………  
……………ひッ……………！！……………？？」

琴音

「い、いやああああああああああああああああ  
ああ！！……………？？ 嫌々嫌々ああ……………！！  
な、何ですかこれは！？ 嫌！ は、離してくだ  
さい……………！！ ぐ、うう……………！！ い、嫌！ い  
やいやいやいやああああああ……………！！」

琴音

「こ、こんなの琴音が望んだことじゃないです……………  
……………！！ 、「ご主人様だなんて……………！！ 嫌です  
……………！！ 嫌！！ 琴音をお家に帰してください……………  
……………！！ パパとママの元に帰してください……………  
……………！！」

琴音

「嫌……ん……あぐう……！ お股いだれ  
す……！ う、うぐう……！ 放して……  
……！」

琴音

「……あぐう……！……？」

琴音

「んぐう……！ んお……！ お……！ お……  
……！ お……！ おお……！……？？ い、  
嫌……！ 叔父様何して……！ ひぐう……  
……！……？」

琴音

「あぐっ！ い、いだいい……！ 嫌、やめ……  
んおおおおお……！……！ んぐう……  
……！ お……！ お……！ お……！ お……！  
お……！ お……！ お……！……！」

琴音

「や、やめてくらひゃい……！……！……！……！  
けちやいます……！……！ お股裂けちゃ……ん  
ぎい……！……！」

琴音

「ん……！……！……！……！……！……！……！  
や、やめて……！……！……！……！……！……！  
お……！……！……！……！……！……！……！  
……！」

琴音

「……！……！……！……！……！……！……！……！  
……！……！……！……！……！……！……！……！  
……！……！……！……！……！……！……！……！  
……！」

琴音

「んぎいゝ……！！ い、いやあ……！！ だじゅげでくだしいいゝゝゝ……！！ だ、誰か……誰かだじゅげて………んぶうゝゝ……！！」

琴音

「じゅる！ じゅるるる！ じゅるるるるうゝゝゝ！ん、んむう……！！ い、嫌……！！ きしゅ嫌……！！ んぐうゝゝゝ……！！」

琴音

「んぐ……！！ ぶはあ……！！ はあ、んぐっ！い、嫌……！！ な、何で……！！ こんな事……！！ こ、琴音……いい子にしたのに……！！な、何で……！！」

琴音

「ひぎい……！！ い、嫌あゝ……！！ 嫌です……！！ 叔父様の口臭いです……！！ こんな匂い嗅いだことないれしゅ！ 吐きそうです……！！ あぐ！ん、んぶう……！！??」

琴音

「んぶう……！！ じゅるるる！ じゅぶ……！！ん、んんゝ……！！ ぶはあ……！！ はあ、ん、あぐう……！！ んお……！！ お、！ お、！ お、！お、お、お……！！」

琴音

「ひい……！！ へ……？ で、出る……って……！！う、嘘……ですよね……？ い、嫌です……！！ そんな……！！ それって赤ちゃん出来ちゃ……んぎいいいゝゝゝ……！！」

琴音

「んお……！！ お、お！ お、お！ お、お！ お  
お、お！ お、お！ お、お！ ひぎい……！！  
嫌あああ……！ は、離してください……  
……！！ 赤ちゃん嫌です……！！ 赤ちゃん嫌あ……  
……！！ 赤ちゃん嫌ですうううううう……！！」

琴音

「んぎゆう……！！ ひい……！！？ お腹の中でま  
た大きくなって……！！ ひぐっ……！！？ う……  
……お……！！ お、おお……！！」

琴音

「ん……！！ あぐう……！！ だ、誰か助けてく  
だひや……んぎゆう……！！ んお！ お、  
お、お、おお……！！」

琴音

「うぎゆう……！！ んお、お、お、お、お、  
お、お、お、お……！！ ぱ、パパ……！！ マ  
マ……！！ だじゅげで……！！ だじゅげ  
でええ……！！」

琴音

「んぎ……！！ やっ……！！ あぐう……！！ もう  
……だめです……！！ んぎゆう……！！ お  
股限界で……んおおお♪ お♪ お♪ お♪  
おお……！！」

琴音

「も、もれりゆ……！！ 何か漏れちゃいましゆ……  
……！！ 熱いの漏れちゃいますう……！！  
……！！」



琴音

「んやあああああ………ん……  
……んお、お、お、お、く………  
……んお、………お、………お、……  
………お、おお………」

琴音

「しよ、しよんな………んぎゅ………や……  
………」  
「………お、お、お、お、お………  
………」

琴音

「れ、れてましゅ………とぶとぶ………  
………  
………お、お、お、お、お、お………  
………」

琴音

「い、嫌あ………赤ちゃん嫌あ………  
………んお………お………  
………お………」

琴音

「ん………あう………うぶ………ん………  
………ん………」

琴音

「………って、はれ………？ん………  
あう？んみゆう………  
様………？」

琴音

「ん………あう………♪これ………ご主人様の  
精液………ん………きゃん♪ん………はう………  
………」

---

琴音

「えへへ♪ ご主人様あゝ……♪ いつの間にまた  
おちんぽぴゅっぴゅしてくれましたか？ そ  
れもこんなに沢山……♪」

琴音

「このままじゃ琴音のお腹、ご主人様の精液でタップ  
タップっておつきくなっちゃいますよ？」

琴音

「って、きゃん♪」

琴音

「ん……ご主人様あゝ……♪ んゝ……ちゅ♪ れ  
ろ……れろれる……ちゅ♪ んゝ……ちゅ♪  
ちゅうゝ……ちゅ♪」

琴音

「はあゝ……♪ 「ご主人様しゅきゝ……♪ らい  
しゅきれすゝ♪ んゝ……ちゅ♪ れろれる……  
♪ ちゅ♪ んゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅうゝ……  
…ちゅ♪ んにやゝ♪」

琴音

「ちゅ……ん、ちゅ♪ れろれる……って、  
ふえ？ 「ご主人様との赤ちゃん、ですか……？  
あうあうゝ……しよ、しよんなゝ……♪」

琴音

「それは勿論欲しいに決まっているじゃないですか  
♪ だって、大好きなご主人様との赤ちゃんです  
よ??」

---

---

琴音

「性処理ペットの琴音にはあまりにももつたいない  
ご褒美ですけど……………許されるなら……………そのう  
……………将来的にはご主人様と一緒に……………琴音  
と琴音の赤ちゃんとで……………一緒にペットとしてご  
主人様にご奉仕したいなって思っちゃいますよお  
……………」

琴音

「……………だから、琴音がご主人様との赤ちゃんを嫌が  
るだなんて事、絶対ありえませんか♪ はい♪ 絶  
対、ぜったいたいありえないんです♪」

琴音

「んへへ♪ ご主人様……………♪ ん……………ちゆ  
♪ ちゆ……………ちゆう……………ちゆ♪ れろれろ……………  
ん……………ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

琴音

「はう……………♪」「主人様ってば2回もぴゅっぴゅ  
したのにまた……………♪ はい♪ 琴音はご主人様の  
性欲を解消する為の都合のいいペットですから  
♪」

琴音

「3回でも4回でも♪ 何度でも琴音のおまんこ使っ  
て、おちんぽ気持ちよくなってくださいね♪ 琴  
音の大好きなご主人様♪」

---

「ん……あ……♪ えへへ♪ おはようございます  
ご主人様♪」

「……はい♪ 今日もご主人様が寝ている間に目覚  
ましキスご奉仕をしました♪ 気に入っていた  
だけたみたいで琴音、嬉しいです♪」

「ん……ご主人様あゝ……♪ んゝ……  
ちゅ♪ れろ……ちゅ♪」

「ん……きゃん♪ えへへ……♪ やっぱり琴音の  
お腹……気になりますか？」

「……はい♪ ご主人様に孕ませてもらってから数  
カ月……ポッコリとお腹も膨らんできて……はい  
♪ 今の琴音はポテ腹性処理ペットですね♪」

「流石にここまで大きくなっちゃうと学園も行けな  
くなっちゃいましたけど……でも琴音にとっては  
ご主人様が全てですから♪」

「ご主人様が気をきかせてくださったおかげで、パ  
パもママも、琴音がご主人様のお嫁さんペットと  
して嫁ぐことを許してくれましたしお金も沢山振  
り込んでくれましたし♪」

---

琴音

「……はい♪ 後悔なんてする訳ないじゃないですか♪ 勿論パパとママ……学園のお友達に会えないのはちよこつと残念ですけど……」

琴音

「でも今の琴音にとって、ご主人様とその他とでは比べるまでもありませんから♪」

琴音

「琴音はご主人様のペットとして傍にいられるならそれでいい……じゃなくって、それがいいんです♪」

琴音

「はあ……♪ ご主人様……♪ ん……ちゆ♪  
好きです……大好きです……♪ 琴音のご主人様……♪ 琴音だけのご主人様……♪」

琴音

「はあ、ん……はあ……はあ……♪ ん、にや……♪ ん……はあ、はあ……♪」

琴音

「ご主人様あ……ん……ちゆ♪ ちゆ……ちゆ♪  
どうか、この子だけじゃなくって、これから何度でも琴音の事、孕ませてください♪」

琴音

「……いつまでも愛しております♪ 琴音の大好きなご主人様♪ ん……ちゆ♪」

---

|      |                                 |
|------|---------------------------------|
|      | トラック10                          |
| 琴音Aa | 「えへへ〜♪ ご主人様〜♪ ん〜、ちゅ♪」           |
| 琴音Ba | 「えへへ〜♪ ご主人様〜♪ ん〜、ちゅ♪」           |
| 琴音A  | 「本日もご主人様の性処理ペットとして……」           |
| 琴音B  | 「ご主人様のだ〜い好きな琴音のちっちゃなベロで……」      |
| 琴音Ab | 「沢山ぺろぺろお耳ご奉仕してさしあげますね♪」         |
| 琴音Bb | 「沢山ぺろぺろお耳ご奉仕してさしあげますね♪」         |
| 琴音A  | 「ふえ？ 何で琴音が2人いるかですか……?」          |
| 琴音B  | 「う〜ん、確かに不思議な事かもしれないですけど……」      |
| 琴音A  | 「でも今はそんな事……」                    |
| 琴音B  | 「どうでもいいじゃないですか♪」                |
| 琴音A  | 「例え夢でも……」                       |
| 琴音B  | 「例え現実でも……」                      |
| 琴音A  | 「琴音たちがご主人様のペットで」                |
| 琴音B  | 「ご主人様にご奉仕したいって気持ちは本物ですか<br>ら〜♪」 |

---

琴音A

「ですから……」

琴音B

「ご主人様は琴音たちのお耳ペロペロで……♪」

琴音A

「遠慮なく気持ちよくなってくださいませ♪」

琴音B

「それではご主人様♪」

琴音A

「琴音の両耳舐め♪奉仕♪」

琴音AC

「失礼いたします♪ ん、ちゅ♪」

琴音BC

「失礼いたします♪ ん、ちゅ♪」

琴音A

「はあ……♪ ご主人様♪ どうですか？ 人の琴音にちゅっちゅされる気持ちは？」

琴音B

「琴音が一人の時では決してできない両耳♪ご奉仕♪  
これもきつと、琴音の想いを聞き届けてくれた  
神様の起こした奇跡ですね♪」

琴音A

「ですから今はこの奇跡に感謝して……ん……  
ちゅ♪ 大好きなご主人様に琴音の愛を2人分♪  
捧げちゃいますね♪」

琴音A

「はあ……♪ ん、ご主人様♪ 今度はれろ  
れろ♪ って琴音の涎塗れのペロで舐めしや  
ぶっちやいますね♪」

---

---

琴音B 「ご主人様のお耳の中に溜まった耳カスも、ぜ〜んぶれろれろ〜ってしゃぶって、「く〜く〜」っくんしちゃいますう♪」

琴音Ae 「ですので〜……」主人様♪」

琴音Be 「ですので〜……」主人様♪」

琴音A 「琴音の唾液を混ぜ込んだ臭〜いお口れろれろ」奉仕♪」

琴音B 「堪能してください♪」

琴音Af 「ん〜……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪  
くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

琴音Bf 「ん〜……くちゅ♪ くちゅくちゅくちゅくちゅ♪  
くちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

琴音Ag 「ん、れ〜……ろれろれろれろ〜  
〜♪」

琴音Bs 「ん、れ〜……ろれろれろれろ〜  
〜♪」

琴音A 「えへ♪」主人様♪ お耳が琴音の唾液でネトネトしちゃいましたね♪」

琴音B 「一度琴音の吐息で乾かしますね♪」

---

---

琴音A

「すうすうすう……♪ ふうふうすうすうすうすう  
すう♪ ふうすうすうすう♪ ふうすうすうすう♪  
ふうすうすうすうすうすう♪」

琴音B

「すうすうすう……♪ ふうふうすうすうすうすう  
すう♪ ふうすうすうすう♪ ふうすうすうすう♪  
ふうすうすうすうすうすう♪」

琴音A

「あうう……♪」主人様？ そのう……♪」う言っ  
てし  
まうと恥ずかしいのですが……そのう……おちん  
ぽ様……大きくなっちゃってますよ……♪」

琴音B

「えへへ♪ そんなに琴音のふうふうが気に  
入ったんですか？ あうう……♪ あうあうう……  
…♪ 琴音、すっごく嬉しいです♪」

琴音A

「それなら……すうう……ふうううううううう♪」

琴音B

「琴音も……すうう……ふうううううううう♪」

琴音A

「今度はこうやって交互に……♪」

琴音B

「お耳ふうふうしてあげますね♪」

琴音A

「ん……そろそろ大丈夫かな……？」

琴音B

「うん♪ こっちのお耳も大分乾いてきたから……  
…」

琴音A

「こ主人様♪ お耳れろれろの続き♪」

---

琴音B

「させていただきますね♪」

琴音A

「ん……えへへ♪ ご主人様あ……♪ 実は琴音、少し不思議な事ができるようになったんです♪」

琴音B

「って、もう実践しちゃってるんですけど……気づかれましたか？」

琴音A

「はい♪ そうなんです♪ 実は琴音、耳舐めしながらこうやってご主人様の耳元で囁けちゃうんです♪」

琴音B

「凄いですよね凄いですよね♪ これもきっと琴音の愛が神様に通じたおかげですよね♪」

琴音A

「あう……♪ これなら耳舐めご奉仕しながらご主人様に愛を囁く事ができます♪」

琴音B

「にゃ……ん♪ まるで夢のようです♪ ご主人様……♪ しゅき……♪ だいしゅきれす……♪」

琴音A

「琴音も……♪ ご主人様……♪ 好きです♪ 大好きです♪」

琴音B

「ご主人様……♪」

琴音A

「ご主人様……♪」

琴音B

「ご主人様♪」

琴音A

「ご主人様♪」

琴音B 「しゅゝき♪」

琴音A 「しゅゝき♪」

琴音B 「大好きです♪」

琴音A 「大好きです♪」

琴音B 「愛してます♪」

琴音A 「愛してます♪」

琴音A: 「ご主人様好きです♪ ご主人様大好きです♪」  
主人様しゅき♪ ご主事様大しゅき♪

琴音B: 「ご主人様好きです♪ ご主人様大好きです♪」  
主人様しゅき♪ ご主事様大しゅき♪

琴音A: 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

琴音B: 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

琴音A: 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

琴音B: 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」

琴音A: 「好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪ 好き♪」



---

「んにゃ♪ ご主人様♪ ん♪……♪ 琴音も  
♪……♪ どんどん発情してきちゃって……♪ あう  
♪……♪ お股がきゅんきゅん切ないですよ  
♪」

「んにゃ♪ はあ、はあ……♪ ご主人様♪  
ご主人様のメス猫ペットの琴音の♪……♪ 甘  
いオネダリ声も聴いてください♪」

「琴音、発情した猫ちゃんの声真似も練習してきた  
んです♪」

「♪うやって♪……♪にゃん♪ にゃんて♪」

「にゃふふ♪」主人しやま♪ にゃん♪  
にゃん♪」

「にゃん♪ にゃん♪」

「ご主人しやましゆきにゃん♪」

「ご主人しやまらしいしゆきにゃん♪」

「ん、にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪」

「にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪ にゃん♪」

「ん、にゃん♪ ご主人様♪？ もうおちんぽ様  
イキそうですか？ おちんぽぴゅっぴゅしちやい  
そうですか？」

---

---

琴音B 「えへへ♪ いいですよ? ご主人様がいくまで琴音、沢山れろれろ舐め続けますから♪ 思うままにイってください♪」

琴音A 「さあ♪ ご主人様♪ おちんぽびゅっぴゅ♪  
おちんぽびゅっぴゅ♪」

琴音B 「おちんぽびゅっぴゅ♪ おちんぽびゅっぴゅ♪」

琴音A 「おちんぽびゅっぴゅ♪」

琴音B 「おちんぽびゅっぴゅ♪」

琴音A 「おちんぽびゅっぴゅ♪」

琴音B 「おちんぽびゅっぴゅ♪」

琴音A 「おちんぽシロシロ♪」

琴音B 「おちんぽシロシロ♪」

琴音A 「それぞれそれぞれ♪」

琴音B 「それぞれそれぞれ♪」

琴音A 「おちんぽ♪」

琴音B 「おちんぽ♪」

琴音A 「おちんぽ♪」

---



---

琴音B

「イけ♪」

琴音A

「イけ♪」

琴音B

「イけ♪」

琴音A

「イけ♪」

琴音B

「イけ♪」

琴音A

「いっちやえ♪」

琴音B

「いっちやえ♪」

琴音A

「いっちやえ♪」

琴音B

「いっちやえ♪」

琴音A

「ご主人様♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪ おち  
んぽぴゅっぴゅうううう♪ おち  
んぽ♪」

琴音B

「ご主人様♪ おちんぽぴゅっぴゅ♪ おち  
んぽぴゅっぴゅうううう♪ おち  
んぽ♪」

琴音A

「わあ♪ ご主人様のミルク、ぴゅぴゅぴゅ♪  
うって沢山出ましたね♪」

琴音B

「琴音、両耳舐めご奉仕なんて初めてでしたけど、  
大成功したみたいでよかったです♪」

---

---

琴音A 「でも……最後の方はちょっとご主人様に対して失礼な物言いだったかもしれませんが……すみませんでした……」

琴音B 「でもでも……！ ご主人様の持つてるエッチな本で、琴音みたいな小さい女の子がイケイケ♪って囁いてる本があったのでちょっとやってみたいな……にやんて思っ♪」

琴音A 「……………ふえ？ またして欲しい……………ですか？」

琴音B 「あうう♪ かしこまりました♪ また今日みたいに奇跡が起きましたら、もう一度、琴音達2人でご主人様のお耳にご奉仕しますね♪」

琴音A 「ふふ♪ それではご主人様♪」

琴音B 「また奇跡に巡り合うその日まで♪」

琴音Ap 「ペットの琴音をよろしく願いいたします♪」

琴音Bp 「ペットの琴音をよろしく願いいたします♪」

---